肝斑や炎症性色素沈着をQスイッチYAGレーザーで治療する
「MedLiteC6」による“Laser Toning（レーザートーニング）”とは

◆ なぜ肝斑や炎症性色素沈着にレーザー治療が禁忌なのか？

肝斑
ホルモンなどの影響で
メラノサイトが
活性化している

肝斑と色沈の共通点
メラニンを生成する
メラノサイトが
感受性の高い
センシティブな状態

PIH
炎症によって
メラノサイトが
活性化している

そこにレーザーをあてると、よりメラノサイトが活性化しやすくなり、メラニンが増えて症状が悪化する可能性がある。（増悪）

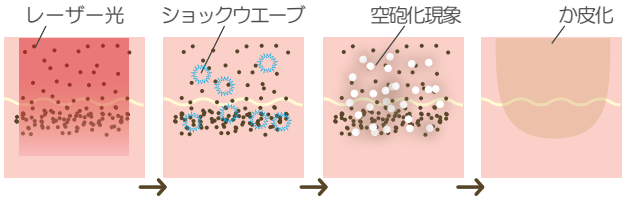
レーザートーニングの適応

肝斑　シミ　色素沈着　毛穴　くすみ

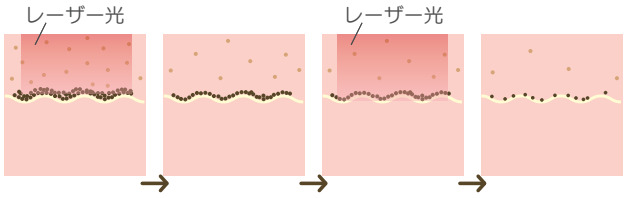
◆ なぜレーザートーニングで肝斑や炎症性色素沈着を増悪なしに治療できる可能性があるのか？

POINT 1 空砲化現象を起こさせない弱い出力

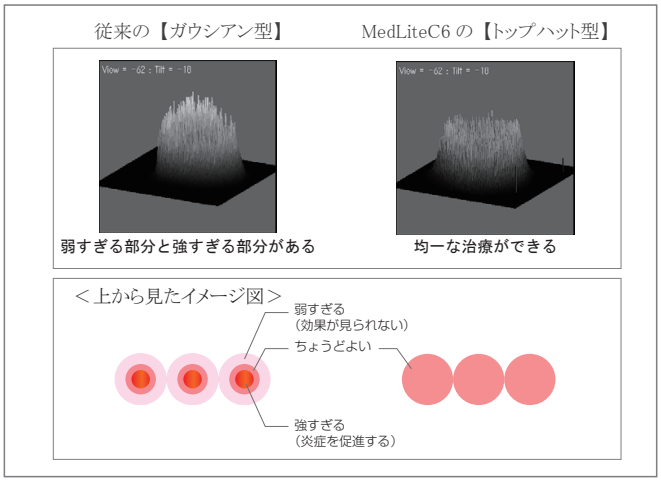
＜通常のQスイッチレーザー治療の場合＞（高出力）



＜レーザートーニングの場合＞（低出力）

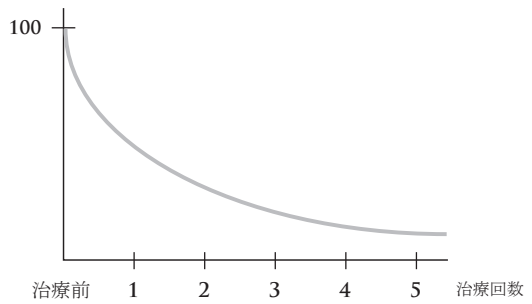


POINT 2 均一照射のトップハット型ビーム光



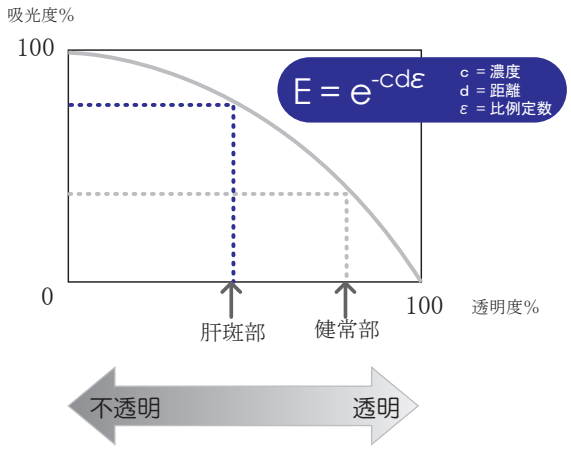
複数回の治療が必要

治療前の疾患部の色調を 100 とした場合の
レーザートーニングによる色調改善度



肝斑（色素沈着）部分がより改善する理由

肌の透明度（メラニン濃度）と
レーザーの吸光度の関係



学術参考資料